

交 野 市

まち・ひと・しごと創生

総 合 戦 略

【第 3 版】
平成29年10月
交 野 市

■交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・目次

1. はじめに	1
(1)策定に至った経過	1
(2)基本的な考え方	1
2. 総合戦略の位置づけ	2
2-1 国の総合戦略の考え方、基本目標、政策5原則	2
(1)国の総合戦略の基本的な考え方	2
(2)国の総合戦略の基本目標	2
(3)国のまち・ひと・しごと創生に向けた政策5原則	3
2-2 総合戦略と交野市総合計画・市長戦略との関係	3
2-3 交野市人口ビジョンとの関係	4
3. 総合戦略策定の経過	5
4. 総合戦略の対象期間	5
5. 総合戦略の進行管理	6
6. 総合戦略の概要	7
(1)基本目標	7
(2)施策体系	9
7. 総合戦略の4つの基本目標ごとの取組み	11
《基本目標1》 子育て世代が魅力を感じるまち	11
《基本目標2》 多様な働き方に対応したまち	14
《基本目標3》 住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち	17
《基本目標4》 地域を守り、地域の元気をつくるまち	20
8. 基本目標を複合的に達成するための取組み	22
☆天の川プロジェクト	22
☆かたの産業元気プロジェクト	24

■更新履歴

【第1版】平成28年1月

【第2版】平成28年5月

- ・「8. 基本目標を複合的に達成するための取り組み」を追加

【第3版】平成29年10月

- ・数値目標等の修正とレイアウト変更

基本目標1 「交野は子育てに適していると思う人の割合」の指標修正

「育休推奨企業顕彰延べ件数」の指標削除

基本目標2 「女性のためのチャレンジ支援事業」の事業文面修正

基本目標3 「成立カップル延べ組数」の指標削除

「年間観光客数」の指標追加

天の川プロジェクト 「年間観光客数」の指標修正

1. はじめに

（１）策定に至った経過

交野市は生駒山系の連なり、そこから流れる天野川といった豊かな自然、そして山麓から平地部に広がる田園、集落という舞台に、歴史・文化が培われ、交通の利便性が整うと共に、計画的な住宅地が形成されて今日に至っています。

一方では、ある時期に住宅供給が集中するという近郊都市特有の課題が見られ、人口の減少傾向、若い世代の転出、年少人口（14歳以下）の減少が進み、今後さらにその傾向が急速に進み、地域活力の減退といった新たな事態が想定されます。

これらは日本社会全体が抱える様々な問題と共通することでもあり、従来の考え方や施策、手法だけでは解決が困難となっています。国はそのような事態を受けて、まち・ひと・しごと創生法を2014（平成26）年11月に制定、2014（平成26）年12月に、国と地方が力を合わせてこれらに立ち向かうため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を提示、本市においても新しい取組が期待される状況です。

そのような背景のもと、今後のさらなる問題の深刻化を克服し、交野市らしい、効果的で実効性の高い施策、取組が必要とされています。

（２）基本的な考え方

交野市で策定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則等を基に、本市における「人口減少と地域経済縮小の克服」と「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」を目指すものです。

また、国の基本的な考え方、総合戦略を踏まえつつも、交野市の実情および市民意向に即した総合戦略とし、その前提として、「交野市人口ビジョン」で示された人口推計、人口減少が地域に及ぼす影響、そしてあるべき人口の将来展望を基本に、その実現にむけた取組みとしての総合戦略とします。

「結婚・出産・子育て」「雇用の創出」「人の流れ」「地域づくり」の4政策分野における基本目標を確立し、それぞれの実現に向けた基本的方向を定め、それに沿った施策、取組みを体系としたものです。

2. 総合戦略の位置づけ

2-1 国の総合戦略の考え方、基本目標、政策5原則

(1) 国の総合戦略の基本的な考え方

交野市で策定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則等を基に、本市における「人口減少と地域経済縮小の克服」と「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」を目指すものです。

国の総合戦略では、急速な人口減少社会等に向かう現状の主たる課題に対応するために、次のような長期ビジョンを掲げています。

(1) 人口減少と地域経済縮小の克服

- ・本格的な人口減少時代の到来、地方と東京圏の経済格差により若者の東京圏への人口一極集中
- ・地域経済の縮小により、人口の一極集中と地方人口減少に拍車
- ・地方における負のスパイラルの解消、人口減少を克服し地方創生
 - ①東京一極集中を是正する。
 - ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。
 - ③地域の特性に即して地域課題を解決する。

(2) まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

- ・地域経済の活性化、産業の高付加価値等による「しごとの創生」
- ・地方就労の促進や移住定住促進等による「ひとの創生」
- ・安心できる暮らしの確保や都市のコンパクト化、広域連携等による「まちの創生」

(2) 国の総合戦略の基本目標

国の総合戦略では、長期ビジョンを踏まえて以下の4つの基本目標を設定し、地方におけるさまざまな政策を集約し、人口減少に歯止めをかけ、東京一極集中の是正を進めていくこととされています。

- ①地方における安定した雇用を創出する。
- ②地方への新しいひとの流れをつくる。
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。
- ④時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

（３）国のまち・ひと・しごと創生に向けた政策５原則

国の総合戦略では、政策の企画、実行にあたっての基本的な方針として、次の通り「政策５原則」に基づき、関連する施策を展開することとされています。

①自立性

構造的な問題に対処し、地方公共団体、民間事業者、個人等の自立につながる。

②将来性

地方が自立的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。

③地域性

各地域の実態に合った施策を支援。国は支援の受け手側の視点に立って支援。

④直接性

最大限の成果をあげるため、直接的に支援する施策を集中的に実施する。

⑤結果重視

PDCAメカニズムの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

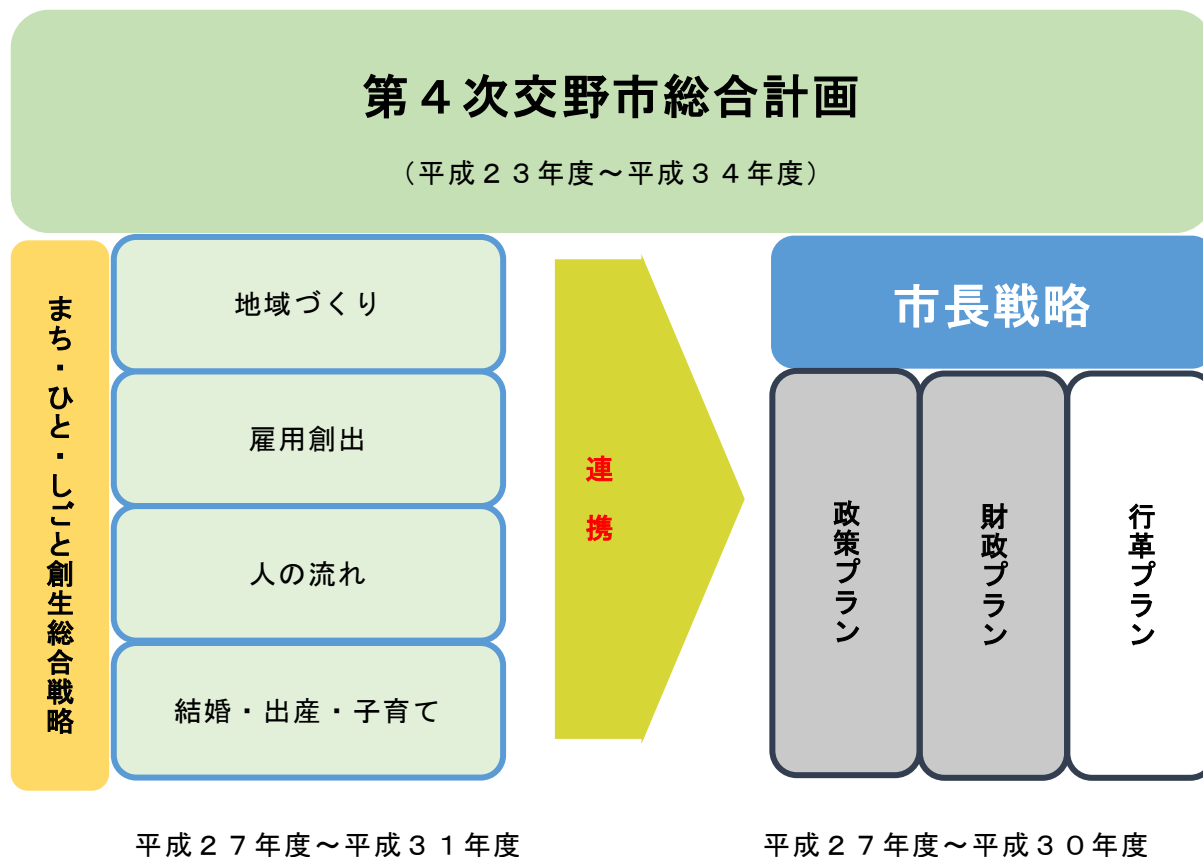
*PDCAはPLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）

２－２ 総合戦略と交野市総合計画・市長戦略との関係

交野市では平成 23 年度から 34 年度を目標とする第 4 次交野市総合計画基本構想を定めています。この総合計画は、交野市におけるまちづくりの理念、目指すまちづくり像を示すと共に、それを踏まえた分野別計画の方向性を示すものです。

市長戦略は、総合計画基本構想に掲げるまちづくりを実現するための方針と重点施策を定めるものです。将来にわたって持続可能なまちづくりをめざすため、重点プロジェクトを定める「政策プラン」、政策を裏づける財政計画を示す「財政プラン」、効率的な行財政を目指す「行革プラン」の 3 つの柱を一体的に推進していくこととなります。

総合戦略は人口減少からの脱却と地方創生を目的にした戦略であり、その目的に沿った、「地域づくり」や「雇用の創出」「人の流れ」更には「結婚・出産・子育て」といった 4 つの基本方向を前提とした戦略が求められるもので、そのため、総合戦略で掲げる特色ある施策・事業を市長戦略における「政策プラン」と一体的に推進していくものと考えられます。



2-3 交野市人口ビジョンとの関係

総合戦略は、人口ビジョンを踏まえて検討することになりますが、交野市人口ビジョンにおいては、これまでの人口動向を前提として推計すると、交野市の人口は2040年には65,000人程、2060年には50,000人程に減少することになります。そしてその事により、市民生活をはじめ経済・雇用、都市・まちづくり、行政サービス等さまざまな面で将来に与える影響、不安があるため、人口の将来展望として、「出生率を高め、若い世代の定住・来住を促す」ことで「バランスのとれた世代構成に転換する」ことによって2040年に69,200人、2060年に60,800人を目指すとしています。

この数値は、若い世代の減少に歯止めをかけ、年少人口（14歳以下）の減少をおさえることで実現するため、以下の4つの方向性を示しています。

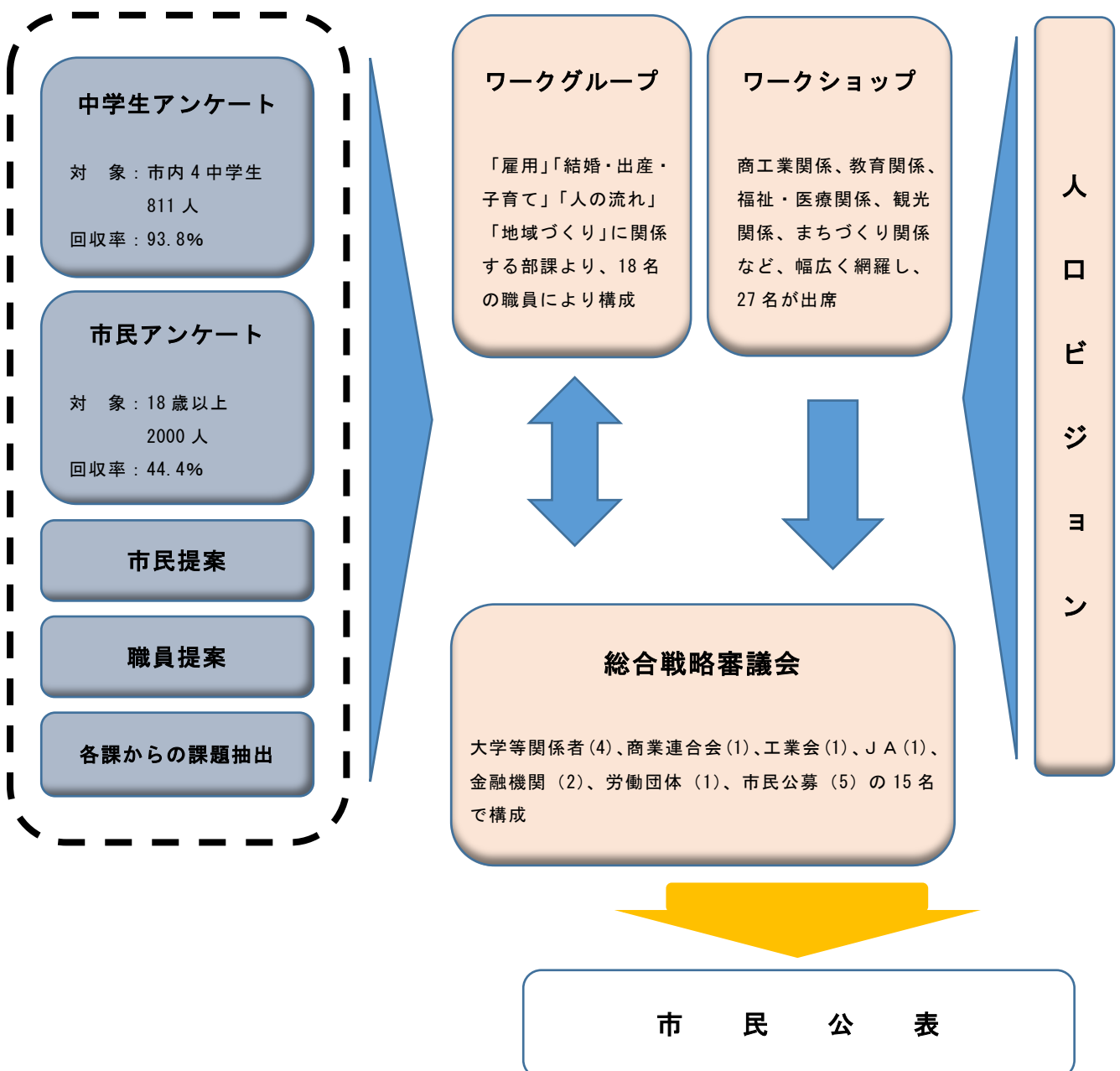
- ①子育て世代が魅力を感じ、安心して子どもを産み育てられるようにする。
- ②多世代が多様な働き方ができるようにする。
- ③定住・来住を含めて選ばれるまちをつくる。
- ④安心して暮らせるまち、活気のあるまちにする。

総合戦略は、この将来方向を実現するために、必要な施策、取組みを明らかにするものです。

3. 総合戦略策定の経過

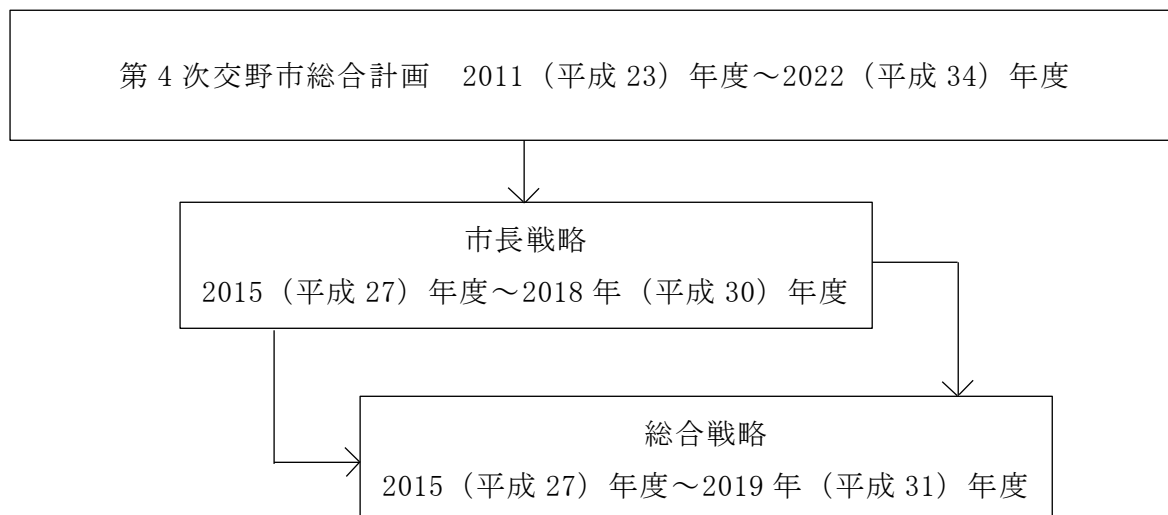
総合戦略の策定にあたっては、市民をはじめ各関係機関・団体等の意見を反映させることが求められます。そこで、市民や若者（中学３年生）の意向を捉えるアンケートを実施し、市民や市職員からのアイデア、提案を求める自由な意見募集、市民ワークショップ開催、庁内ワークグループ設置をすると共に、産・官・学・金等による「総合戦略審議会」を設置し、集約を図ってきました。

それらを通じて「結婚・出産・子育て」「雇用の創出」「人の流れ」「地域づくり」の４政策分野における基本目標を確立し、それぞれの実現に向けた基本的方向を定め、それに沿った施策、取組みを体系としたものです。



4. 総合戦略の対象期間

交野市総合戦略は、国の総合戦略を勘案しつつ、効果的な施策を集中的に実施していく観点から、また関連する市長戦略 2015（平成 27）年度～2018（平成 30）年度との連動、点検を考慮して、2015（平成 27）年度～2020（平成 31）年度の 5 年間とします。



5. 総合戦略の進行管理

（1）政策目標と政策評価

交野市総合戦略では 4 つの基本目標ごとに、5 年後の実現すべき成果に係る数値目標を立てています。

また、基本目標ごとに講ずべき施策及び取組内容を明らかにし、各施策の効果を客観的に検証できる指標＝重要業績評価指標（KPI＝Key Performance Indicators）を設定しています。

それら政策目標をもとに政策評価を行うことを基本とします。

（2）進行管理

総合戦略の進行管理は、PDCAサイクル＝PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の 4 つの視点を政策実行・検証の過程に取り込むことにより、継続的な改善を推進する進行管理とする方法を取ることとします。

（3）検証・取組体制

総合戦略の効果検証にあたっては、進行管理を踏まえて施策、取組みの見直しの検討が行われる推進体制を庁内に確立します。合わせて、客観的外部評価が必要であることや公民協働により実現できる取組みが多いことから、市民や専門分野関係者が参画する「交野市まち・ひと・しごと総合戦略審議会」において検証を行うこととします。

6. 総合戦略の概要

(1) 基本目標

人口減少社会のもと、交野市が持続可能なまちとして存続するために、国の総合戦略に掲げる 4 目標に準拠して、4 つの基本目標を掲げます。それらの目標は個々に存在するものではなく、持続可能なまちとして存続するためのストーリーをもちます。

— 結婚・出産・子育て —

《基本目標 1》

「子育て世代が魅力を感じるまち」

何よりも、子育て世代に交野の魅力を感じていただく。

例 何やら交野は今住んでいるところよりも子育てしやすそうだ。
他市の知人からも交野に住んでいることを羨ましがられる。
自分自身も子育てするなら交野がいいと思う。
子どもが生まれても交野なら働き続けられる。

— 雇用の創出 —

《基本目標 2》

「多様な働き方に対応したまち」

子育て中でも働きたい、或いは仕事を定年退職したけれども、まだまだ働く元気があるという方などの希望を叶える。

例 様々な支援制度を活用して、空いた時間に働きたい。
趣味を活かした仕事がしたい。
子育てに専念するため育休を取り、何年か後には復職したい。

《基本目標 3》

「住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち」

交野に住めば、子育てや多様な働きに係る希望が叶えられる。もちろん、そうした魅力が感じられる交野に「一度訪れてみたい」につながる。訪れた人を更に魅了し、住んでみたいと思われる。

例 昼間都会に出ている分、住む場所は山や川のある自然豊かな場所がいい。

子どもがのびのびと成長できる環境にこそ居住を構えたい。

都会にないものに魅力を感じるからこそ、交野に行きたい、住みたい。

若い私たちでも無理なくマイホームの夢がかなえられる。

《基本目標 4》

「地域を守り、地域の元気をつくるまち」

協働のまちづくりをすすめる交野の資本は地域の方々。この方たちの健康を支える。また、元気になれば、集いが生じ、結果、自助、共助の流れができる。

例 私が住んでいる地域の高齢者はとても元気に活動されているので、子どもを見守ってもらえる。

地域の絆が形成されていて、気軽に近所の高齢者から子育てに関する知恵をもらえる。

地域活動の負担がうまく軽減され、無理なく活動に参加できる。

交野の魅力UPに繋がる ⇒ **プラスのスパイラル**

(2) 施策体系

4つの基本目標に結びつく、基本的方向と具体的施策との関係は次の通りです。

基本目標	基本的方向	具体的施策
— 結婚・出産・子育て — 《基本目標 1》 「子育て世代が魅力を感じるまち」	子育て・親育ちを応援する取組を進めます。	子育て世帯の負担を減らす施策
		気軽に子育てが相談できる場の開設
		親も子どもと一緒に成長するための施策
	子どもがいきいきと育つ取組を進めます。	魅力ある幼児教育の推進
		幼・保・小連携への取組
		いじめ・不登校のないまち

基本目標	基本的方向	具体的施策
— 雇用の創出 — 《基本目標 2》 「多様な働き方に対応したまち」	起業・創業を応援する取組を進めます。	起業・創業しやすい環境の整備
		女性のキャリアを生かす仕事の場づくり
	働きたい人、働く人への取組を進めます。	働きたい人、働く人への支援
		地域産業、地元企業を知ってもらい、就労に繋げる取組
	地域を元気にし、応援する取組を進めます。	地域に根差した魅力ある企業づくり

基本目標	基本的方向	具体的施策
— 人の流れ — 《基本目標 3》 「住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち」	多世代向けの多様な住宅づくりを支援する取組みを進めます。	移住・定住の促進
	資源を活用した交流人口の増加に向けた取組みを進めます。	世代にマッチした情報ツールによるまちの売りの発信
	自然を愛し、守り伝えるための取組みを進めます。	自然を活用したにぎわい創出に向けた事業の展開 環境美化に対し、まちが一体となった取組み

基本目標	基本的方向	具体的施策
— 地域づくり — 《基本目標 4》 「地域を守り、地域の元気をつくるまち」	協働の仕組みづくりに向けた取組みを進めます。	市民活動支援制度の確立
	地域の活性化に向けた取組みを進めます。	既存資源を活用した活性化への取組み
	地域の健康を守る取組みを進めます。	健康に繋げる取組み

7. 総合戦略の4つの基本目標ごとの取組み

《基本目標1》 子育て世代が魅力を感じるまち

交野市は、その市域面積の半分を山地が占める自然豊かな田園都市であり、子育て環境としても非常に魅力ある都市として発展してきました。

「0～4歳」の子どもと、「35～39歳」の世代の社会動態を見ると、わずかながらも転入超過が続いており、子育て環境に魅力を感じて、交野市に移り住んでいることが確認できます。

しかし、社会情勢も日々変化する中、市民のニーズは多様化し、自然環境の良さだけでは、人を呼び込むための魅力としては弱くなってきています。

今後、人口減少社会が進む中、若い世代を交野市に呼び込むために、今の子育て世代のニーズを的確に把握し、これまで取り組んできた施策を継続しつつ、子育てに伴う不安や不便がないと感じられるまちとして、発展することを目指します。

●数値目標

指 標	基準値	目標値(H31)
出生数	572 人 (H26)	565 人
希望する子どもの数と現在の子どもの数の差(平均値)	0.6 人 (H26)	0.4 人
交野は子育てに適していると思う人の割合(総合戦略アンケート)	85.92% (H27)	90.00%

【基本的方向1】子育て・親育ちを応援する取組みを進めます。

「子どもを育てる」ことには、不安はつきものです。子育ての方法には、決まった形があるわけではなく、その子その子に応じた子育てが必要で、まさに1つ1つがオリジナルな子育てです。

交野市は、そんな「オンリーワンな子育て」を頑張るお父さん、お母さんの不安や負担を減らし、すべての親が子育てを楽しく感じられるための取組みを進めます。

また、「子は親の背を見て育つ」と言われています。親としてのあり方が問われる昨今、子どもを育てる中で、親も親として成長する取組みを進めます。

■KPI(重要業績評価指標)

指 標	基準値	目標値(H31)
子育て応援プラン(教育ローン)の利用者延べ人数	— (H27)	960 人
コンシェルジュを利用した人の満足度	— (H27)	80%

1-1-① 子育て世帯の負担を減らす施策

次代を担う子どもたちは交野の宝です。そんな子どもたちが、すくすくと元気に育っていくための親の負担の軽減を図ります。

想定される事業	概 要
子育て世帯定住促進事業	通院、入院にかかわらず、中学校卒業までの医療費の助成を実施します。
子育て応援プラン事業	子育て貸付金（教育ローン）について、高校進学の中三年生及び大学進学の中三年生を対象として、金融機関、市の相互協力のもと金利を優遇した支援を実施します。

1-1-② 気軽に子育てが相談できる場所の開設

現在、手当、医療、子育ての相談など、子育ては主に子育て支援課、保育所に関してはこども園課とそれぞれの所管により受付が異なります。妊娠、出産、子育てに係る支援施策を切れ目なく実施するため、その支援体制の拡充策として、専門職員のいる総合的な受付窓口を設け、気軽に相談できる体制を確立します。

また、市民自らが制度申請等を行い易くするために、情報発信の見直しを行います。

想定される事業	概 要
妊娠・出産・子育てにおける切れ目ない支援事業	妊娠・出産・子育てにおいて、一定制度は整備していますが、それらの制度を切れ目なく活用できるための情報発信としてガイドブックの作成（見直し）とコンシェルジュの配置を実施します。

1-1-③ 親も子どもと一緒に成長するための施策

親としてのあり方は千差万別というものの、昔は大家族の中で、経験豊かなおじいちゃん、おばあちゃんから伝承され、学び、親も成長してきました。

しかし、核家族化が進む現在、そうしたおじいちゃん、おばあちゃんの役割を担う機会が減りつつあります。親も学び、成長する機会を設け、子育てと同時に親育ちができる環境の整備に取り組みます。あわせて、子どももいずれ迎える「親」となるその時に備え、必要となる知識などを習得できる機会を設けます。

想定される事業	概 要
家庭教育学級の拡充（親学習事業）	保護者同士やさまざまな年代の人との対話や交流を通して、子育ての大切さ、親のあり方等について学ぶ講座を開設します。
親になるため学習事業	小中学生を対象として、親になるための学習（講座の開設や乳幼児とその保護者とのふれあいなど）を行います。

【基本的方向2】子どもがいきいきと育つ取組みを進めます。

全国学力・学習状況調査結果からも、交野市に住む小中学生の学力の高さが伺えます。

こうした高い学力水準を維持することも必要ですが、何よりもすべての子どもたちが平等に学びの機会を得ることが重要です。

自然環境豊かなこの交野のまちで、すべての子どもたちが平等に、のびのびと学び、いきいきと成長していくための取組みを進めながら、教育にかかる新しい取組みを積極的に取り入れるなど、総合的な教育水準の向上に努めます。

■KPI（重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H31)
フォローアップ事業により切れ目なく支援が実施されていると感じる人の割合	学 校：88.9%（H27） 保護者：75.0%（H27）	学 校：95.0% 保護者：80.0%
認知されたいじめ、不登校の件数	いじめ：5件（H26） 不登校：35件（H26）	いじめ：4件 不登校：25件

1-2-① 魅力ある幼児教育の推進

幼児期に、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、体力・運動能力の向上のみならず、健康の維持や何事にも積極的に取り組む意欲といった心の成長につながります。

こうした考えのもと、幼児も楽しみながら、またより効果の高い体操指導を実施します。

想定される事業	概 要
魅力ある幼児教育の推進事業	外部機関による運動教室を開催します。

1-2-② 幼・保・小の連携

子どもたちが成長する過程において、環境の変化などにより、様々な迷いやストレスを感じることがあります。中には幼稚園、保育所でフォローが必要となるケースも考えられます。

こうしたケースの早期発見に努め、適切な支援を実施します。また、小学校での学習や生活を円滑に行えるよう、幼・保・小の連携を図りながら、情報共有に向けた取組みを進めます。

想定される事業	概 要
フォローアップ事業	心理発達相談員が、就学前に実施している巡回相談対象児童の状況（集団での支援、保護者への助言内容等）を就学後も継続できるように、各小学校に情報伝達を行い、切れ目のない支援に向けた取組みを行います。

1-2-③ いじめ・不登校のないまち

近年、教育において、いじめ・不登校は重大な教育課題となり、特に小中学生のいじめに関しては、自殺に至る事例が多発し、大きな社会問題にまで発展しています。早期発見、早期対応の体制の整備とあわせて、子どもたちが相談しやすい環境の整備に取り組めます。

想定される事業	概 要
スクールソーシャルワーカー活用事業	スクールソーシャルワーカーを小中学校に派遣し、いじめや暴力行為、不登校などの課題解決に向けた取組みを実施します。

《基本目標 2》 多様な働き方に対応したまち

交野市として、各世代構成のバランスが取れていることから、それぞれの世代の事情に応じた「働き方」が求められています。特に、子育ての空いた時間に働きたいという女性や、これまで仕事で培ってきたノウハウを活かした仕事がしたいという高齢者のニーズが高まっています。

国の長期ビジョンにおいても、「地方における安定した雇用」が、「地方への新しい人の流れ」に繋がる、いわゆる「しごと」と「ひと」の好循環づくりと示されており、交野市における子育て環境の整備に加え、「多様な働き方」への対応が、人を呼び込むための魅力につながるものと考えます。

これらのことから、各世代の事情に応じた働き方を進めるための取組みを実施するとともに、地元企業や農業の活性に向けた取組みを進めます。

●数値目標

指 標	基準値	目標値(H31)
交野市内在住女性（30～34 歳）の就業率	54.8%（H26）	60.0%
交野で雇用創出が必要だと思う人の割合 （総合戦略アンケート）	75.4%（H26）	67.9%

【基本的方向 1】 起業・創業を応援する取組みを進めます。

起業・創業は、多様な働き方の 1 つの手段と考えます。交野市では、コミュニティビジネスやブチ起業を含む自らのアイデアを形にするための起業を志す人や、新分野創出、経営革新等を目指す経営者の支援を行い、「交野はチャレンジできるまち」の風土づくりに取組みます。

■K P I（重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H31)
創業延べ件数	—（H27）	8 件

2-1-① 起業・創業しやすい環境の整備

関係機関と連携を図りながら、起業・創業を志す人の総合的な支援を行い、「交野なら起業・創業しやすい」と言われる環境の整備に努めます。

想定される事業	概 要
創業支援ネットワーク構築事業	市、商工会議所、金融機関の 3 つの機関が連携し、創業希望者の発掘、育成、相談、計画、融資、補助など、起業・創業に係る支援を行い、起業・創業しやすい環境の整備を実施します。

【基本的方向２】 働きたい人、働く人への取組みを進めます。

働きたいけど働けないなど、「働き」に係る悩みは人それぞれあります。特に女性の場合、結婚、出産を機に離職されるケースが多く、厚生労働省が実施した出産・育児等を機に離職した女性の再就職等に係る意識調査では、子育てなどが一定区切りを迎えれば、起業や再就職を望む人が９割弱を占めていることがわかります。

「21世紀は女性が輝く時代」と言われているように、各方面で女性の活躍がクローズアップされ、各市町村でも女性が輝くための施策を打ち出しています。

交野市においても、女性を中心とした働くことを希望する人、或いは働く女性に注目し、支援する取組みを進めます。

合わせて定年退職者が経験を生かして、新たな働く場を得ることで、地域経済に寄与するとともに市民のニーズに応えるようにします。

■ K P I（重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H31)
チャレンジ支援認定企業延べ件数	—（H27）	107 社
高校認定試験受験希望者延べ人数	—（H27）	20 人

2－2－① 女性のキャリアを生かす仕事の場づくり

交野市として、女性が働きやすく、活躍するための支援に取り組みます。

また、女性が活躍できる場づくりに企業にも協力を要請し、交野市全体でそうした風土の醸成に取り組みます。

想定される事業	概 要
女性のためのチャレンジ支援事業	女性の登用・活躍推進や、子育て環境整備に積極的に取り組む企業を顕彰します。
働く女性支援事業	女性の創業や就職、再就職の促進へつなげるセミナーや就職・再就職に向けた職場体験（インターン）の受け入れを実施します。

2－2－② 働きたい人、働く人への支援

女性はもとより、定年退職者など多様な働き方が望まれていることから、働きたいと思う人に対しては、特に働く機会の提供を行うため、事業者にも多様な雇用形態を働きかけ、広く交野市内の企業や個人店舗からの求人情報を提供し、雇用に繋げます。

また、子育て世帯が働きやすいよう、子どもの保育に係る事業の拡充に努めます。

想定される事業	概 要
求人電子掲示板の設置事業	交野の企業や個人店舗などで募集する非常勤社員、正社員に関する情報を織姫ネットを活用して、広く周知します。
スキルアップに対する支援事業	就職希望者に限定した高校認定試験受験費用を全額補助するとともに、情報対応能力を高めるための研修等を支援します。
放課後児童会の拡充に向けた取組み	長期休暇中にかかる放課後児童会開放時間を８：００～１８：３０までに延長します。

【基本的方向3】地域を元気にし、応援する取組みを進めます。

新たな雇用を創出するためには、地元企業をはじめ、地域産業の「元気」・「活気」が必要です。

交野市内の様々な団体の皆様も、お互いに関わり合いをもちながら、企業・産業などの活気づけに向けた取組みを展開されています。交野市としても、そうした取組みの支援として、多くの人に取組み内容を知ってもらうこと、また実際に企業・産業を体験してもらうことを基本とした取組みを進めます。

■K P I（重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H31)
交野めぐり延べ参加者数	300 人（H27）	1,600 人
国府補助制度の延べ獲得件数	5 件（H27）	20 件
農業振興に係る市民満足度（満足度調査）	2.926（H20）	3.000

2-3-① 地元企業、地域産業を知ってもらい、就労につなげる施策

地元企業、地域産業の取組みは、様々な媒体を通じてお知らせをしています。視覚的な周知だけではなく、実際にその取り組みを「見て」、「聞いて」、「触って」といった五感で感じ、より深くその取り組みを知ってもらうためのイベントを実施します。

想定される事業	概 要
「農」のある暮らしの提供に向けたふれあいツアーの拡充事業	農作物の収穫体験や野外でのおにぎり作りを通じて、農業への理解を深める体験ツアー。現状1年1回収穫時に開催しているものを種まき（なえ付け）時から関わるものとしてツアー開催回数を増やします。
地元企業・産業ふれあいイベント支援事業	地元産業・企業に親しむ機会「交野めぐり」の実施に向けた支援をします。

2-3-② 地域に根差した魅力ある企業づくり

専門のアドバイザーによる集客魅力のある店づくりから、地元企業の経営革新や融資等のアドバイスをを行い、お店の活気づけのお手伝いをいたします。

想定される事業	概 要
集客力向上支援事業	集客魅力のある施設・個店づくりの府補助認定アドバイス、融資、税制優遇に係るアドバイスなどアドバイザーの派遣を拡充します。
既存企業リノベーション支援事業	商工団体、金融機関、大学等と連携して、経営力を高める情報提供、研究・技術開発等の機会創出を支援します。

《基本目標 3》 住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち

市民アンケートや中学生に対するアンケート結果からも「交野の環境が好き」という意見が非常に多く、交野の環境に魅力を感じる人の多さが伺えます。

市としても、そうした多くの人の意見を踏まえ、この環境を守り伝えていく責務があると感じています。特に市内を流れる「一級河川 天野川」は、交野市内の有志団体により定期的に清掃活動が実施され、その水質もここ近年良好な状態が保たれています。実際に、民間団体の調査では枚方水域まで鮎の遡上が確認されています。

また、交野山から展望される大阪平野の夜景は非常に美しく、民間の夜景ランキングでも大阪府下で 10 位に入る穴場的なスポットです。

このように、交野市には地域資源が数多くあり、住みたい、行きたいと思われる要素を数多く有していることから、積極的な情報発信に努め、交流人口、来住人口の増加に取り組んでいきます。

●数値目標

指 標	基準値	目標値(H31)
社会増減 (転入者数 — 転出者数)	△86 人 (H26)	2 人
交野に住み続けたいと思う人の割合 (総合戦略アンケート)	69.8% (H26)	76.8%

【基本的方向 1】 多世代向けの多様な住宅づくりを支援する取組みを進めます。

交野市は、団塊の世代と呼ばれる人が若いころに住み、発展したまちです。今、そうした団塊の世代の子どもたちは、親元を離れ、新たな家庭を築き、暮らしています。

民間のアンケート結果によると親世代、子世代ともに遠く離れて暮らすことに不安を感じているとの回答が多く、この結果は、親世代、子世代のお互いに相手を思いやる気持ちの表れだと思われます。

交野市では、そうした親子の気持ちを汲み取って、定住・来住の促進に向けた取組みを進めます。

また、交野市への来住動機として豊かな自然や田園の中で住むということが評価される良さを一層生かせるように、「農のある暮らし」を推進します。

■ K P I (重要業績評価指標)

指 標	基準値	目標値(H31)
子育て世代同居・近居補助金申請件数	— (H27)	20 件/年

3-1-① 移住・定住の促進

子育て世帯の U ターン、I ターン、J ターンの支援に取り組めます。

想定される事業	概 要
移住・定住促進事業	子育て世代を積極的に呼び込むために、市内での同居、近居の状況に応じて助成をします。

【基本的方向 2】 資源を活用した交流人口の増加に向けた取組みを進めます。

自然派志向が高まる中、地域資源を有する市町村では、自然環境をモチーフにした出会いの場や教育の場、更には子育ての場など、地域資源の最大限の活用が図られています。

交野市も、交野山や天野川など、地域資源が豊富にあります。そうした地域資源を単一の活用に終わらせることなく、複合的な効果を見定めながら、新たな活用を見出し、「交野ならではの」の魅力を積極的に発信します。

■ K P I （重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H31)
ふるさと納税件数	86 件 (H26) 2,303,362 円 (H26)	140 件 4,500,000 円
情報提供に係る市民満足度	3.183 (H20)	3.204
年間観光客数	約 850 千人 (H26)	1,100 千人

3-2-① 世代にマッチした情報ツールによるまちの売りの発信

情報発信の取組みは、いかに求められる情報を効率よく効果的に提供するかが大切です。単なる情報のぶら下がりになっていては、提供側の自己満足に過ぎません。こうした考えに立ち、情報を提供する手段だけではなく、ツールの見直しを行い、情報を欲する側の視点にたった提供の場のリニューアルに取り組みます。

想定される事業	概 要
魅力発信事業	従来、ふるさと納税は市のHPを活用し、実施してきましたが、専用のポータルサイトへ登録し、魅力発信に力を入れます。
	今ある市のHPを全面的にリニューアルし、情報発信に力を入れます。

3-2-② 自然を活用したにぎわい創出に向けた事業の展開

交野には、大型の商業施設がなく、市民アンケートからも遊戯施設や商業施設の誘致が求められています。しかしながら、人の手では作ることのできない山や川といった地域資源は豊富にあります。こうした地域資源の新たな活用を検討し、交流人口の増加に向けた取組みを進めます。特に交流人口の増加に向けた取組みに関しては、単なる地域資源の活用に留まることなく、複合的な効果を見定めます。

想定される事業	概 要
かたのツーリズム	交野山などの自然環境を活用し、既存団体の協力のもと、きれいな夜空、星、夜景を観覧。地域資源の再発見と出会いの場としても活用します。

【基本的方向3】 自然を愛し、守り伝えるための取組みを進めます。

今ある地域資源は、古来より「次の時代へ守り伝えていこう」という先住民の想いが形となったものです。そうした想いを途切れさせることなく、次の時代へ引き継ぐことが我々の使命です。

交野市としても、そうした意識の啓発や、かけがえのない自然を守るための取組みを進めます。

■ K P I（重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H31)
環境施策に係る市民満足度	3.094（H20）	3.121

3－3－① まちが一体となった環境美化

まちが一体となって、自然環境を守ると言う意識の高揚と美化に向けた取組みを実施します。

想定される事業	概 要
リバーフェニックス事業	枚方水域まで鮎が戻ってきていることを踏まえて、流域地域を巻き込んだ天野川の清掃活動及び魚道づくりを実施します。また加えて水質を保全するための支川の清掃活動にも取り組みます。
竹炭活用事業	既存団体の協力のもと、小中学生や高校生、環境に関心のある市民を対象に、山地保全の一環として、竹の伐採、竹炭作成を実施します。

《基本目標 4》 地域を守り、地域の元気をつくるまち

人は、人と関わり、お互いを見守り、支え合うことで、日々の暮らしに安心感を覚えます。

一般には、人との関わりの希薄化が問題視されていますが、幸いにも、この交野市ではお互いに見守る、支え合う機運が醸成されています。その根底には、既存の町内会や自治会を介してのつながりや地域活動が活発に行われていることがあげられます。まさに、「個人」を守るのは「個人」で構成される「地域社会」です。

交野市では、市の活性化に向けた取組みを進めるためには、市を構成する「地域社会」の活性化が必要であり、その「地域社会」の活性には、「地域社会」の構成員である「市民」が、なにより健康でなければならないと考えます。そうした考えに基づき、市民の健康につながる取組み、地域活動の支援につながる取組み、まちの賑わいにつながる取組みを進めます。

●数値目標

指 標	基準値	目標値(H31)
健康寿命	男 79.55 才 (H22) 女 83.32 才 (H22)	男 80.55 才 女 84.32 才
協働のまちづくりを充実させたいと思う人の割合 (総合戦略アンケート)	61.4% (H26)	50.0%

【基本的方向 1】 協働の仕組みづくりに向けた取組みを進めます。

活動団体（地域や市民団体）と市町村が、目的や課題を共有し、それぞれの特性に応じた役割と責任を分担し、連携・協力して公共的な事業を行うことが、協働のまちづくりの定義と考えられています。

交野市でも概ねこの考えに基づいた協働のまちづくりを進めてきました。今後、その活動の幅が広がり、活発に行われることも視野に入れ、「協働」の考え方を改めて整理し、仕組みづくりの確立に向けた取組みを進めます。

■K P I（重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H31)
市民活動を行う上で、市が所有する資源が活用される件数	— (H26)	80 件

4-1-① 市民活動支援制度の確立

市民活動を行う上で、市の支援の形を明確にし、より活発な活動ができる仕組みづくりに取り組みます。

想定される事業	概 要
市民活動支援に係るしくみの創設	団体などが市民活動を行う上で必要となるモノの部分において、市が保有する資源（備品や公用車など）を活用できるための制度設計と運用を実施します。

【基本的方向 2】 地域の活性化に向けた取組みを進めます。

まちを構成するのは、地域です。いわば、地域の「元気」が、まちの「元気」につながります。まちが元気になるためには、地域を元気にすることが必要であり、そのためには、あらゆる資源を用いて、地域の活性化に取り組めます。

■ K P I（重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H31)
図書館棚設置個所数	— (H26)	25 箇所

4-2-① 既存資源を活用した活性化

自然環境などの地域資源だけではなく、駅前や商店街の空家、空店舗、市として所有する資源も多数あります。そうした資源の有効活用を図り、まちに人を呼び込む取組みを進めます。

想定される事業	概 要
まちの図書館化事業	市内の拠点（飲食店やまちデイなど）に、図書館のリサイクル図書や自分が読み終えた本を置ける棚を設置し、まちの賑わいの創出に取り組めます。

【基本的方向 3】 地域の健康を守る取組みを進めます。

地域活動に対する支援の形を明確にしても、地域に「元気」と「活気」がなければ、活動に結びつきません。地域が元気でいられること、それは地域の健康は、その地域に住む人たちの健康を守ることによって維持することができます。地域の健康を守るために、交野市としてその構成員である地域住民の健康の維持向上に係る取組みを進めます。

■ K P I（重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H31)
歩くことが多くなったと感じる人の割合	— (H27)	60.0%

4-3-① 健康づくりの施策

健康づくりの基礎は、適度な運動とバランスのとれた食事です。交野市では、そうした健康づくりの一翼を担う意味も含めて、適度の運動に係る支援を進めます。

想定される事業	概 要
わがまちウォーキング事業	町中に、その地点から様々な公共施設や観光施設までの距離を明示し、歩くことを促す取組みを進めます。
ストレッチ体操促進事業	ウォーキングの途中などに、誰でも気軽にストレッチをしたり、体のツボを刺激したり、筋肉を鍛えたりなどができる健康遊具を設置します。

8. 基本目標を複合的に達成するための取組み

総合戦略に掲げる基本目標を達成する手段としては、「7. 総合戦略の4つの基本目標ごとの取組み」にあるように、個々の基本目標に対し、個別の具体的施策を講じる方法と合わせて、複数の基本目標を達成するため、様々な連携（政策連携、地域間連携）を軸としたプロジェクトを実施する方法もあります。

本市の現状と課題を踏まえ、今ある資源を最大限に活用する中で、加速度的に基本目標達成の手段として、次の2つのプロジェクトを実施いたします。

☆ 「天の川プロジェクト」

交野市は、これまでも述べてきているとおり、多くの地域資源を有する風光明媚な田園都市です。

しかしながら、それらの地域資源は「有する」というだけで、誘客に結び付けられる活用は決して十分であるとは言えません。

近隣の枚方市においても、多くの地域資源を抱えながらも、本市と同様、その活用方法や誘客に対し課題を抱え、その対策には様々な工夫を凝らし、実施されております。

同じ境遇にある枚方市と交野市。偶然にも、両市は天の川伝説ゆかりある自治体であり、また両市を結ぶキーワードとしては「天の川」、「鉄道」があることから、両市のゆるキャラと鉄道をコラボさせた誘客イベントを実施し、賑わい創出に向けた取組みを進めます。あわせて、誘致した観光客に対し、より両市の魅力を感じていただくために、両市の魅力を満載した体験ツアーやスタンプラリーを実施いたします。

【達成される基本目標】

《基本目標2 多様な働き方に対応したまち》

基本的方向2 働きたい人、働く人への取組みを進めます

基本的方向3 地域を元気にし、応援する取組みを進めます

《基本目標3 住みたいまち、行きたいまちとして選ばれるまち》

基本的方向2 資源を活用した交流人口の増加に向けた取組みを進めます

基本的方向3 自然を愛し、守り伝えるための取組みを進めます

●数値目標

指 標	基準値	目標値(H31)
年間観光客数	約 85 万人 (H26)	110 万人

■K P I (重要業績評価指標)

指 標	基準値	目標値(H28 年度末)
ツアー延べ参加人数	— (H28)	500 人
スタンプラリー応募数	— (H28)	300 通
もう一度交野に訪れたいと思う人の割合	— (H28)	80%

【施策の先駆性】

本プロジェクトを実施する上では様々な視点からの先駆性を持たせています。

自立性	イニシャルコストは、国・府の交付金を活用しますが、事業そのものが自走できるための仕組みを作ります。
官民協働	市が主体となっていくのではなく、その役割を明確にした中で、民間と協働して実施することが求められています。今回の天の川プロジェクトは、主体となる「鉄道会社」のほか、商工会議所、大学、両市の観光協会との協働により実施いたします。
政策連携	賑わいづくりとしての観光政策、体験ツアーには農業政策や商業政策によるまちの活性化に加え、新たな雇用にも結び付けます。
地域間連携	本市単独の取り組みではなく、枚方市との連携のもと事業推進を行います。

☆ 「かたの産業元気プロジェクト」

社会経済情勢の悪化、或いは人口減少・少子高齢化の進展により、交野市の産業全体の活気が低下しています。商店街にはシャッターを閉じる店舗が目立ち、農業においては担い手不足。商工業においても経営状況の低迷が深刻な問題となっています。

ただ、こうした状況は昨日今日突然起こったものではなく、これまでも様々な対策が講じてきてはいるものの、なかなか十分な効果が発揮できていませんでした。当然、今ある現状に対し、これまでと同じような取組みでは、過去の二の舞になることは火を見るよりも明らかなです。

そこで、今ある現状に対し個々の施策を講じるのではなく、これらを一体的な取組みとして、単なる商業の活性化ではなく、それを達成するための手段に、高齢者・障害者福祉施策、或いは子育て施策との連携事業として、新たな取組みを講じます。

【達成される基本目標】

《基本目標 1 子育て世代が魅力を感じるまち》

基本的方向 1 子育て・親育ちを応援する取組みを進めます

基本的方向 2 子どもがいきいきと育つ取組みを進めます

《基本目標 2 多様な働き方に対応したまち》

基本的方向 1 起業・創業を応援する取組みを進めます

基本的方向 2 働きたい人、働く人への取組みを進めます

基本的方向 3 地域を元気にし、応援する取組みを進めます

《基本目標 4 地域を守り、地域の元気をつくるまち》

基本的方向 2 地域の活性化に向けた取組みを進めます

基本的方向 3 地域の健康を守る取組みを進めます

●数値目標

指 標	基準値	目標値(H31)
交野市在住女性の就業率	54.8% (H26)	60.0%
交野で雇用創出が必要だと思う人の割合	75.4% (H26)	67.9%

■K P I（重要業績評価指標）

指 標	基準値	目標値(H28 年度末)
チャレンジ店舗の利用者から起業・創業した店舗数	— (H28)	1 店舗
アンケートによる商店街各個店の売り上げ増加率	— (H28)	10%
提案制度による採択数	— (H28)	5 件
空き家ビジネスとして雇用した数	— (H28)	2 名

【施策の先駆性】

本プロジェクトを実施する上では様々な視点からの先駆性を持たせています。

自立性	イニシャルコストは、国・府の交付金を活用しますが、事業そのものが自走できるための仕組みを作ります。
官民協働	市が主体となつて行うのではなく、その役割を明確にした中で、民間と協働して実施することが求められています。今回のかたの産業元気プロジェクトは、地元商店街、J A、生産連合会、金融機関、大学との協働により実施いたします。
政策連携	産業における賑わいづくりという観点から、産業振興を基本としながら、地域コミュニティの推進や子育て支援との連携。更には医商との連携を目指します。